

令和5年度全国学力・学習状況調査における 北九州市立枝光台中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

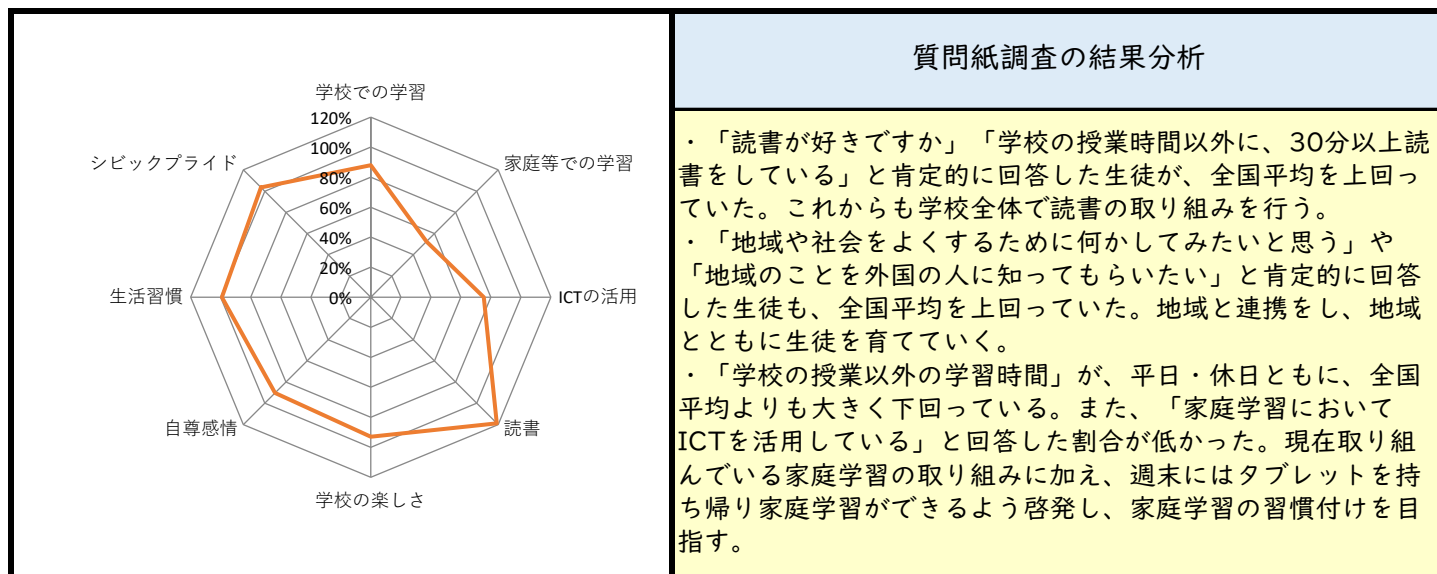
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・中間層の割合が多く、正答数が伸びていない傾向である。 ・「書くこと」については、全国平均と同程度であり、振り合えりシートやNIEの取り組みの成果がみられた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「事象や行為、心情を表す語句について理解しているかをみる」問題は全国平均を上回っていた。	下回っている
	努力が必要な問題	「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかみる」の問題など、「書くこと」の要領に努力が必要である。	

数学	全体的な傾向や特徴など	・中位層の正答数が極端に少ない傾向にある。 ・無回答の割合が低く、問題に意欲的に取り組む姿勢がみられる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかみる」問題など「数と式」の領域が全体的にできている。	下回っている
	努力が必要な問題	「図形」の領域の正答数が全国平均よりも低く、記述式の問題に努力が必要である。	

英語	全体的な傾向や特徴など	・中位層の正答数が極端に少ない傾向にある。 ・選択式の問題は、ほとんどの問題で無回答率が0%であり、意欲的に取り組むことができている	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかみる」問題は全体的にできていた。	下回っている
	努力が必要な問題	「未来表現の肯定文を正確に書くことができるかどうかみる」問題など短答式や記述式の問題に努力が必要である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

振り返りシートと話し合う活動、タブレットを活用した授業をすべての教科で実施した。これからも、基礎・基本の定着のため、毎日の授業を大切に、家庭学習の習慣の定着を目指す。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「毎日、同じくらいの時刻に寝起きている」と回答した生徒は、全国平均を上回っている。基本的な生活習慣が身につけているので、家庭と連携しながら、毎日の家庭学習課題やNIEの活動、タブレット学習を今後も継続し、家庭学習の習慣づけを行う。